

第Ⅳ部
保育・教育の
具体的な取り組み



第Ⅳ部 保育・教育の具体的な取り組み

第Ⅲ部 保育・教育課程

0歳児 Ⅲ期 P.20

ねらい「盛んに喃語を発し、声を出すことを楽しむ」につながる姿

0歳児
4ヶ月
人との
関わり

見つめ合って「あのね・・・」 ～保育者との触れ合い～

子どもの姿

【これまで】5月の入園当初は、睡眠が安定せずベビーベッドに寝かせてもすぐに目覚めてしまうことが多かった。産明け児ということで、担任保育者、看護師など職員間で連携を密にとり保育にあたってきた。

【今】睡眠、授乳、遊びなどのリズムが安定してきて、園生活にだいぶ慣れてきた。

寝返りができるようになり、腹這いで過ごせる時間が増えた。玩具を渡すと、舐めて確かめている。

<ねらい>

○安心できる環境のもと、一人一人の生活リズムで安定して過ごす。

○特定の保育者に優しく語りかけてもらったり、あやしてもらったりして、関わりを喜ぶ。

<エピソード>

登園してきて機嫌よくマットの上で過ごすAちゃん。仰向けで手足をさかんに動かしているうちに、スムーズに寝返りを打ち、腹這いの姿勢で周囲を眺めていた。

「Aちゃん、おはよう」と保育者が顔を近づけながら、優しく声を掛け、本児のそばに座り見守っていた。少しすると、腹這いのまま「あぁ～あぁ～・・・」と発声し始めたAちゃん。「Aちゃん、お話上手だね～」と保育者が穏やかに声を掛け、再び本児と顔を近づけ、向き合うような体勢になった。すると、Aちゃんは保育者の方にしっかりと顔を向け、視線を合わせた。「Aちゃん、楽しいね」と笑顔で語り掛ける保育者と視線を合わせ、「あっ、あっ・・・」と声を出し、ご機嫌なAちゃんだった。



<保育者の援助>

- ・子どもが心地良い姿勢をとりながら、寝返りや腹這いなど様々な姿勢が経験できるように、そばで見守り援助する。
- ・喃語を育めるように、子どもの状態を見守り、優しく声を掛けたり、発声に応答したりしていく。
- ・優しくあやされたり、目を見て語りかけられたりする心地良さを味わえるように、一对一の関わりを大切にする。

<環境の構成>

- ・寝返り、腹這いの姿勢などで全身運動が十分できるように、マットなどを敷いた安全で清潔な場を確保し環境を整える。
- ・遊具などは、子どもが舐めたり触ったりしても安全なように、子どもの発達に適した物を選び、用意する。

「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…保育者の愛情豊かな関わりを通して、欲求を満たし心地よく生活する。
身近な人と気持ちが通じ合う…表情や発声、喃語を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。

身近なものとの関わり感性が育つ…遊びの中で様々なものを見たり触れたりして、興味や好奇心をもつ。

保育あるある知恵袋

Q：0歳児（主に生後6か月まで）での主活動は、どのような遊びを設定するのですか？ また、どのような経験を大切にしていけることが望ましいですか？

A：次第に睡眠、授乳、遊びと生活リズムが安定してくる時期です。一人一人の発達に合った活動（寝返り、腹這いなど）を十分に行えるようにしましょう。また、各感覚器官（目、耳、手、口など）が急速に発達する時期です。安心できる環境のもとで、聞いたり、見たり、触ったりできる玩具（プレイジム、柔らかい玩具など）で遊び、一对一の関わりを大切にしましょう。

0歳児
8ヶ月
運動

「楽しそう！やってみたい！」 ～すべり台の遊び～

子どもの姿

【これまで】腹這いになり、手のひらで上半身を支え、目を見たものに手を伸ばして握ったり、片方の手から持ち替えたりしていた。

【今】お座りからハイハイなど、姿勢を変えて遊ぶ姿が見られる。一人で座れるようになり、座った姿勢でも両手を使って遊べるようになっている。保育者の語りかけを喜び、自分でも声を出すことを楽しんでいる。

<ねらい>

- 姿勢を変えたり、移動したりして体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 保育者と十分に関わり、欲求を受け止めてもらうことで、親しみをもち安定して過ごす。

<エピソード>

保育室でA君が座って遊んでいると、少し離れた滑り台で保育者が他児と関わりながら「おおきなたいこ」を歌い始めた。A君はふっと顔を上げた。保育者は「ドーン」の歌詞に合わせて両手をたたいた。それを見たA君は嬉しそうに笑い、座った姿勢から両手をつきハイハイをして滑り台に向かって動き出した。滑り台に手をかけ、ひざ立ちし保育者を見て「あっ」と言うと、保育者は「おおきなたいこ」を歌いながらA君を見てにっこり笑った。A君はリズムをとるかのように嬉しそうに揺れた。その後、姿勢を変え滑り台の下からハイハイで上ろうとした。保育者が「いちに、いちに、よ」と自分の両手を交互に滑り台の斜面に置いて見せた。A君が両手をついたので、保育者は体を支え「いちに、いちに」と声をかけた。



<保育者の援助>

- ・子どもがいろいろな体の動きを経験できるよう、保育者が一緒に動いたり、動きを擬音語で表したりして、繰り返し遊びの中で働きかける。
- ・子どもが欲求を受け止めてもらいながら安心して過ごせるよう、喃語や身振りで自分の思いを出した時には、十分に受け止め、表情豊かに言葉で返したり、微笑み返したりして応答的に関わるようにする。

<環境の構成>

- ・子どもが這う、座るなどの動きを十分に経験できるように、触りたくなる、動きたくなる遊具など、体の動きを促す環境を用意する。
- ・子どもが安全に動いて遊べるよう、周りにマットを敷いたり、一人一人の成長に合わせて、空間や運動遊具の位置などを変えたりしていく。

「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…寝返り、這う、お座りなど体の動きを広げる。

身近な人と気持ちが通じ合う…人見知りや後追いが始まり、要求があると声を出したり、イヤイヤバイバイなどの動作をしたりする。

身近なものに関わり感性が育つ…身の回りのものに興味をもち触ったり、口に入れたり、気に入ったことを繰り返したりする。

保育あるある知恵袋

Q：0歳児に対する声かけで大切なことは？

A：赤ちゃんの行為に対する声をかけます。例えば、転がるボールを追いかけると「ボールまてまてね」、ボールを手にとると「ボールとれたね」などです。また、赤ちゃんが驚いたり、発見したり、喜んだりした時に保育者を見ることがあります。その時に「○○ね」と共感的に答え、思いを十分に受け止め、意味づけをしていくことも大切です。

0歳児
11ヶ月
生活習慣

「まねっこ楽しいね！」 ～玩具を通した保育者とのやりとり～

子どもの姿

【これまで】保育者との信頼関係を築きながら、思いを受け止めてもらい、安定して園生活を送れるようになった。気に入ったおもちゃを持ち、くり返し振ったり、たたいたりして遊ぶことを楽しんでいる。
【今】保育者と簡単な動作や片言でやりとりをしたり、保育者の仕草を真似たりして楽しんでいる。保育者に手を添えてもらいコップを持って飲もうとしたり、離乳食を手づかみで食べたりしている。

<ねらい>

- 保育者と一緒に、簡単な言葉や動きのやりとりができる遊びを楽しむ。
- 遊びの中で、保育者のしていることに興味をもち、模倣することを楽しむ。

<エピソード>

ままごと用の食べ物おもちゃで遊ぶことが好きなAちゃん。おにぎりやコップを持って舐めてみたり、口に当ててみたりして、じっくり遊んでいた。

そばで様子を見守っていた保育者が、色々な食べ物をお皿にのせて、「Aちゃん、どうぞ」と本児のそばに置く。興味を示して、お皿を見つめ、食べ物へと手を伸ばすAちゃん。「おにぎりおいしいね」など、共感する言葉を掛けながら、視線を合わせやりとりしていった。

保育者の方を見つめ返し、次第に笑顔が増えていくAちゃん。「いただきます」と保育者が手を合わせると、Aちゃんもお辞儀をするような動きをして、やりとりを楽しんでいた。

離乳食の時間になると、保育者の挨拶と仕草を真似て、「いただきます」と嬉しそうに手を合わせるAちゃんだった。



<保育者の援助>

- ・子どもが好きな遊びを十分楽しめるように、そばで見守りながら、必要に応じて思いを受け止めたり、優しく言葉を掛けたりしていき、一対一での関わりを大切にしていく。
- ・保育者とのやりとりを楽しめるように、一緒に遊ぶ中で、状況に合った言葉を添えながら、簡単な身振り手振りを分かりやすく行う。(どうぞ、ありがとう、いただきます など)

<環境の構成>

- ・誤飲、誤食を避けるため、玩具の大きさや形状は適しているか確認し、危険な物は手の届く所に置かないようにする。
- ・自分から「触れてみたい」と感じるように、玩具類に変化をもたせ、工夫する。
- ・一人一人がじっくり楽しめるように、玩具は多めに用意する。

「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…ゆったりとした環境の中、一人一人の生活リズムで安心して過ごす。
身近な人と気持ちが通じ合う…保育者との応答的な触れ合いや言葉掛けを通して、やりとりを楽しむ。

身近なものとの関わり感性が育つ…遊びの中で様々なものに触れ、手指を使って遊ぶことを楽しむ。

保育あるある知恵袋

Q：0歳児で起きる玩具の取り合いでは、どのように対応したらいいですか？

A：友達への行動に関心を示し、関わりをもととするようになります。例えば、友達のそばに行き顔を近づけてみたり、友達の持っている玩具に手を伸ばしてみたり、子どもなりに行動で表します。その中で、欲しい玩具が手に入らなかったり、自分の思い通りにならなかったりすると、物の取り合いになったり手が出てしまったりする場面もあります。一人一人をよく見守りながら、“〇〇したかったんだね”など気持ちを言葉にして代弁していくことが大切です。

0歳児
10ヶ月
環境との
関わり

ポトン、カチャン「もう一回」 ～チェーン入れ遊び～

子どもの姿

【これまで】保育者と愛着関係を築いていく中で、少しずつ周りの物へ目が向くようになり、興味・関心のある物を見つけ、触れてみようとしていた。

【今】腹這いやハイハイで好きな場所へ移動し、様々な玩具を手に取り、動かしたり、口に入れたり、音を出したりして楽しんでいる。

<ねらい>

- 安心できる保育者のもと、身の回りの興味あるものに触れて遊ぶ。
- 保育者と関わり、思いを受け止めてもらいながら探索活動を楽しむ。

<エピソード>

プラスチックチェーンが気に入り、口に入れて確かめていたA君。保育者が正面から「ポトン」と言いながらチェーンを容器の穴に入れて見せた。すると「カチャン」と音がした。その様子をじっと見ていたA君は、驚くような表情をした後、チェーンをつかみ、腕を持ち上げチェーンの先と穴をじっと見ながらそっと入れた。「カチャン」と音が鳴ると、A君は保育者の顔を見た。「カチャンで、落ちたね」と保育者が言うと、A君は嬉しそうな表情をしてもう一度チェーンを穴に入れた。その後、周りにあったプラスチックの積木を入れようとしたが、穴より積木が大きく入らなかった。積木を床に置くと、周りを見て次にカラーボールを手を持ち、また穴に入れてみようとした。



<保育者の援助>

- ・子どもが身近な環境に興味をもち触ったり、探索したりするよう、子どもの気付きや驚き、喜びを受け止め、意味づけする。
- ・遊具を打ち合わせたり、出し入れしたりする遊びの時は、子どもの思いにすぐに共感したり、さりげなく働きかけたりできるよう、正面に座って関わるようにする。

<環境の構成>

- ・子どもが身近な環境に興味をもてるよう、音の大きさ、持ちやすい形、手触り、色合い、大きさや重さなど、子どもの感覚や動きに応じたものを用意する。
- ・子どもが安全に探索活動を楽しめるよう、口に入れても安全で衛生的なものにする。
- ・子どもの探索意欲を満たすために、一人一人の発達や興味に応じた玩具や空間を準備する。

「0歳児3つの視点」から大切にしたいポイント

健やかに伸び伸びと育つ…手、指、足腰を使いながら十分に探索活動をする。

身近な人と気持ちが通じ合う…保育者の対応的な触れ合いや言葉がけを喜び、親しみをもつ。

身近なものに関わり感性が育つ…身の回りのものに興味をもち、容器に物を入れる、かぶせる、のせる、合わせるなどをする。

保育あるある知恵袋

Q：0歳児が興味をもち触りたくなる遊具や、体の動きを促すものとはどのようなものですか。

A：触りたくなる遊具：布などの手触りの柔らかいもの(ミルク缶の布引き、マジックテープのつけはずし、スポンジ素材の型はめ)、音がするもの(プラスチック容器のチェーン出し入れ、小さいペットボトルにビーズを入れたもの)、ゆっくりとした動きのもの(ボール、起き上がり人形)など
体の動きを促すもの：巧技台の蓋にマットをかぶせ緩やかな山をつくる、ウレタン積木で段差をつくるなど

1歳児
6月
運動

「楽しい！もう1回！」 ～マット遊び～

子どもの姿

【これまで】つかまり立ち、伝い歩きを経て、1人歩きができるようになり、歩き回ることを楽しんでいった。

【今】1人歩きが安定してきて、よじ登る、またぐ、くぐる等、様々な動きを楽しむようになってきている。

<ねらい>

- 保育者に見守られながら、マット遊びを楽しむ。
- 伸び伸びと全身を動かすことを楽しむ。

<エピソード>

子ども達が保育室での遊びを楽しむ中、保育者が丸めたマットの上にもう1枚のマットをかぶせ、山を作った。その様子に興味をもち、数名の子ども達が近付いてきた。「お山ができたね、登ってみる？」と誘いかけると、A君がマットに手をつけて慎重に登り始めた。まずは両手とおなかをつき、片足を上げて、腹ばいになった。続けて、もう片方の足もまたぐと山を越えることができ、嬉しそうな表情を見せた。「できたね、楽しかったね、もう1回やる？」と聞くと、A君は山のスタート地点に戻っていった。

その後、何度も山登りをして楽しむ中で、全身を使ってよじ登ったり、山の頂上で腹ばいの状態から体を起こしたりと、様々な動きを楽しむ姿が見られた。



<保育者の援助>

- ・バランスを崩した時にすぐに支えられるよう、登っている子どものそばにつき、安全面に配慮する。
- ・子どもの「もっとやりたい」という意欲を受け止めながら、安心して遊べるよう、温かい雰囲気を作る。
- ・「楽しい」という思いを保育者が代弁しながら、子どもの楽しい気持ちに共感する。
- ・一人一人の発達に合わせ、見守ったり、必要に応じて援助したりする。

<環境の構成>

- ・子どもが様々な動きをすることを予測し、周りにマットを敷く、物が無い広い空間に場を作るなど、安全に配慮して場を設定する。
- ・保育者同士で連携し、立ち位置や役割分担の確認をする。
- ・子どもの興味を引き、「やってみたい」という気持ちをもてるよう、子どもの目の前で場を設定する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体…心と体を十分に動かしながら、満足感をもつことで、いろいろな場面に応じて体を動かすことに期待をもつ。

自立心…経験のないことに興味をもち、やってみようとする。

思考力の芽生え…自分なりに様々な動きを試しながら、繰り返し楽しむ。

保育あるある知恵袋

Q: 運動的な遊びにあまり興味を示さず、やってみようとするのがあまりありません。どのような関わりをすれば、体を動かすことが楽しいと感ぜられるようになるのでしょうか？

A: 子どもが自ら体を動かそうとするためには、まずは心を動かすことが大切です。保育者が投げたボールを追いかけてみたり、段差を乗り越えてみたりと、遊びの中で様々な動きが楽しめる活動を投げかけ、その子が「楽しそう」「やってみようかな」と感ぜられる活動を探っていきましょう。

1歳児
7月
人との
関わり

「Bちゃんと一緒！ぼくも入れたよ」 ～カラートンネルでの遊び～

第Ⅲ部保育・教育課程
1歳児 Ⅱ期 P.24
ねらい「保育者や友達の
真似をして遊ぶ」に
つながる姿

子どもの姿

【これまで】保育室以外の場（園庭・ホール）にも少しずつ慣れ、安心して遊べるようになった。友達の存在が気になりだしているが、保育者と一対一で関わったり、一緒に好きな遊びを楽しんだりする姿が多かった。

【今】いろいろな場や遊具に興味をもって探索活動を楽しんだり、触ったり試したりして遊ぶようになってきた。周囲の友達への興味・関心が高まり、友達がやっていることを真似して遊んだり、友達と関わりをもとうとしたりしている。

<ねらい>

- 安全で活動しやすい環境の中で、自由に体を動かすことを楽しむ。
- 保育者や気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

<エピソード>

A君は、友達がカラートンネルに入っていく様子をじーっと見ていた。保育者が「A君もおいで」とトンネルの反対側から手招きして誘いかけるが動かない。そこで、保育者がトンネルをのぞいて手を振ったり、「ばあ」と顔を見せたりすると笑顔を見せた。すると、Bちゃんが保育者の真似をしてトンネルの中をのぞき、A君に「ばあ」と笑いかけた。A君は「キャッキヤ」と笑い「ばあ」とBちゃんに笑顔で応えた。しばらく2人は「ばあ」と言いながら笑い合うことを繰り返し楽しんでいった。保育者は「A君とBちゃん、一緒に楽しいね」と声をかけ、2人の様子を見守っていた。

その後、Bちゃんがトンネルの入り口側に戻り、再びトンネルの中にはいはいで入っていくと、A君も後に続きはいはいで入っていった。



<保育者の援助>

- ・子どもが楽しめるように動きや表情を見ながら声をかけ、一緒に遊び楽しさを共有する。
- ・自分からしてみようとする気持ちが膨らむように声をかけ、遊び出せるようなきっかけ作りをする。
- ・友達と遊ぶ楽しさが感じられるように、言葉にならない思いを汲み取り代弁したり、他児の姿を知らせたりして関係を繋げる。

<環境の構成>

- ・動きが活発になり行動範囲が広がってきていることに配慮し、ホール遊びの役割分担をしたり、危険が予測される場には保育者がいたりするなど、立ち位置を工夫する。
- ・子どもの興味や発達に合った動きが引き出せるように遊具を設定する。
- ・一人一人が好きな遊びを見つけて楽しめるよう、遊びの場をいくつかに分けて設定する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

協同性…友達と同じ場で遊ぶ中で、友達と一緒にやりたいという気持ちが芽生えたり高まったりする。

言葉による伝え合い…しぐさや表情、簡単な言葉などで自分の思いを表現する。また思いや欲求を受け止められ返してもらい喜びや安心感、やり取りの心地よさなどを感じる。

自立心…興味のある遊びを楽しみながらやりたい欲求を満たしたり、できた喜びを感じたりする。

保育あるある知恵袋

Q：友達が使っている玩具を黙って持って行ったり、力づくで取ったりしてトラブルになります。対応は？

A：この時期の発達には、自分と他者の気持ちを区別しにくい時期です。大人が「これで遊びたかったのね」

などと気持ちを受け止めながら仲立ちし、その都度友達の気持ちにも気付かせていきましょう。その後「欲しいときは『かして』と言おうね」と伝えたり、友達を推さないことや順番を知らせたりしていきます。子どもは友達との関わりをたくさん経験することで、いろいろな感情を味わいながら、少

1歳児
10月
生活習慣

「出来た！」 ～ズボン履き～

子どもの姿

【これまで】保育者との信頼関係を築いていく中で、様々なことに興味をもち始め、“やってみたい”“自分でやりたい”という気持ちをもつようになってきている。

【今】保育者にやり方を教えてもらったり、自分より月齢が高い友達が自分で着替えをしている様子を見て模倣しようとしたりしながら、少しずつ自分でできることを増やしている。

<ねらい>

- 簡単な身の回りのことに興味をもち、保育者の手助けを受けながら、自分でしようとする。
- 保育者の言葉かけを聞いて、ズボンを自分で履こうとする。

<エピソード>

園庭遊び後、保育者がA君に「お着替えしよう、ズボンを脱いでごらん」と言うと、A君は自分でズボンを脱ぎ、保育者がオムツ替えを行った。その後、「ズボンを履こう」と言い、台に座るように促した。ズボンをA君に手渡し、足を入れてと言うと、ズボンに片足を入れ始めた。A君はズボンを引っ張るが、うまく足が出せず、怒り始めた。「一緒にやってみようね」と、保育者がズボンの裾を一緒に引っ張ると、足先が出た。「出来たね！」と一緒に喜び、「こっちもやってみよう！」と促すと、同じようにズボンに足を入れ、履き始めた。足先が出せたため、「やったね！」と一緒に喜び、立つように促しながら、「上に引っ張るよ、ぎゅっぎゅっぎゅう」と声をかけると、両手でズボンを上げた。お尻のところで引っ掛かったが、保育者がさりげなく手伝い、履くことができる、満面の笑みを浮かべた。



<保育者の援助>

- ・履きやすいよう、ズボンの向きを合わせて手渡す。
- ・自分でしようという意欲が見られた時には褒めて、その後は見守るようにし、できた時にはたくさん褒め、次への意欲につなげる。
- ・一人一人の姿に合わせて、「ぎゅっぎゅっぎゅう」など、擬音を用いながら具体的なやり方を知らせる。
- ・子どもが“自分でできた！”という気持ちをもてるよう、さりげなく手伝う。

<環境の構成>

- ・トイレ及びおむつ替えの場所の近くに、ズボンを履きやすい高さの台（座る場所）を用意する。
- ・すぐに取り出せるよう、必要な衣服を整理し、かごなどに揃えて入れておく。
- ・着脱しやすいズボンを用意してもらうよう、保護者にお願いします。
- ・一人一人のペースで取り組めるよう、時間と場所を確保する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体…保育者や友達と一緒に生活をしていく中で、必要なことのやり方を見たり、教えてもらったりしながら、身に付け、意欲的にやってみようとする。

自立心…保育者に見守られながら、自分のことを自分でしようとする。

思考力の芽生え…どのようにすればうまくできるか、自分でやってみながら、やり方を身につける。

保育あるある知恵袋

Q：身の回りのことがまだうまくできないのに、「自分でやる！」と言い、手助けすると癩癩を起こします。どのように対応したらよいのでしょうか？

A：この時期の発達では自分でやりたい気持ちが芽生えることを理解し、子どもの気持ちを理解しましょう。うまくできないときには、見本を見せたり、さりげなく手を添えて手伝ったりして子どもの「自分でやりたい！」という気持ちを尊重しながら見守ります。また、着替えの際には子どもが自分で取り組みやすいように、着脱しやすい衣服やそのときに使用する椅子など用意し、環境を整えることも大切です。

1歳児
2月
環境との
関わり

「みんなでおばけをやっつけろ！」 ～光を見ての見立て遊び～

子どもの姿

【これまで】おばけが登場する絵本や紙芝居、歌や手遊びを朝の集まり時などにクラスの皆で楽しむことを喜んでいました。

【今】おばけが好きな子どもが増え、園庭でおばけになりきって追いかっこをしたり、月齢の高い子ども達はおばけの絵を描く・粘土でおばけを造るなどして遊んだりするようになった。

<ねらい>

○保育者や友達と、見立てやつもり遊びを楽しむ。

<エピソード>

冬の日の午後、保育室に光が差し込み、ゆらゆら揺れながら光っていた。B君が「見てー。おばけがいる！」と光を見上げて叫んだ。保育者は「わあ、おばけが来たね。」と驚き、「キラキラ光って動いているよ。」と光を指さした。子ども達が「きゃー、おばけだあ」と騒ぎだし、はしゃいで跳ねたり、保育者の背中に隠れたりした。A君が「おばけ、怖い。」と泣きそうになるとCちゃんが「大丈夫！」と胸をたたき「Cがやっつける！」と剣を取りに行った。保育者が「Cちゃんがやっつけてくれるんだって。もう怖くないね」と言うとA君はほっとした表情になった。

他児もすぐに剣を欲しがったので、保育者が素早く剣を手渡した。剣を手にした子ども達は光にむかって

「えいっ」
「とりゃー」と戦いを
挑んで楽しんでいた。



<保育者の援助>

- ・保育者や友達と楽しさを共有できるように、子どもの発見や驚きまた表現を受け止め、好奇心や興味を引き出したり、子どもの言葉に丁寧に応じたりする。
- ・子ども同士の関わりに繋げていけるように、子どもがイメージしやすいような言葉がけをしたり、一緒に遊ぶ中で友達の動きを知らせたりする。
- ・安全に楽しめるように、子ども同士でぶつかることのないよう十分気を付けて見守る。

<環境の構成>

- ・自由に動ける空間を確保できるように、床の上に置いてある玩具を片付けたり、棚や柱の角にガードをつけたりして安全な環境を整える
- ・見立てやつもり遊びが楽しめるように、また興味をもった遊びをすぐに楽しめるように十分な数の玩具（井形ブロックの剣）を用意する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

自然との関わり…身近な自然事象の美しさや不思議さに触れて関心をもち、遊びに取り入れる。
豊かな感性と表現…心を動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを楽しむ。

思考力の芽生え…身近な事象に好奇心をもって関わる中で、不思議さや面白さを感じたり、経験からイメージしたことを生かしたりして、見立てやつもり遊びを楽しむ。

保育あるある知恵袋

Q：少食や偏食で、好きなものを食べ終わると立ち上がったたり遊び始めたりして落ち着きません。対応は？

A：この時期の子どもには、楽しく食べることを大切に援助していきましょう。まずはテレビを消す、テーブル上の玩具を片付けるなど、食事に集中できる環境を整えます。また大人が子どものそばで落ち着いて介助できるように、台拭きやおかわり分を入れた皿などをあらかじめ用意しておくとういでしょう。量を調整し「食べられた」という喜びを経験できるようにしたり、食材に興味をもてるような言葉がけをしたりして楽しく食べられるような工夫をします。遊びだす前に声をかけ食事を終わりにしましょう。

2歳児
6月
環境との
関わり

「雨いっぱい！」 ～制作活動～

子どもの姿

【これまで】粘土やひも通しなど机上遊びに興味を示し挑戦するも、手指を上手く使えないことで、思い通りにできず、すぐに飽きてしまう姿があった。制作活動では、クレヨンでなぐり描きをしたり、シールを貼ったりすることを楽しんでいた。

【今】手指を使った遊びを繰り返し行う中で、少しずつ手指を思うように動かせるようになり、集中して楽しめる子どもが増えている。絵の具やのりなどに興味をもち、意欲的に制作に取り組む子がいる反面、感触が苦手だったり、手が汚れることを嫌がったりする子も見られる。

<ねらい>

- のりに興味をもち、手指を使った制作を楽しむ。
- 雨をイメージして、自分なりに表現してみようとする。

<エピソード>

「青いのりで雨を描くよ」と手本を見せながら製作の説明をすると、手が汚れるのが苦手なAちゃんも興味をもった様子で見つめていた。「Aちゃん、やってみる？」と誘うと、「うん」とすんなり椅子に座った。「1本指でちょんって触ってごらん」と伝えると、少しためらったので、「大丈夫だよ」と励ますと、勇気を出し、のりに触れることができた。指に付いたのりを不思議そうに見つめてから、紙に伸ばしていくAちゃん。隣で仲良しのBちゃんが「大雨になったよ」とたくさん描いている姿を見て、「Aちゃんも大雨にする！」と手が汚れることを気にすることなく、のりを指にどんどん付けて雨を描いていった。

「Aちゃんも大雨、上手に出来たね」と声をかけると、「雨いっぱい！」と喜んでいた。



<保育者の援助>

- ・雨をイメージできるよう、雨に関連する絵本を読んだり、歌を歌ったりする。
- ・のりを使った雨の制作に興味をもてるよう、のりに絵の具を混ぜ、色が変化する様子を知らせたり、実際にやって見せたりする。
- ・表現する楽しさや満足感が味わえるよう、やってみようとする姿を大切に、イメージが広がるような声かけをしたり、できたことを一緒に喜んだりする。

<環境の構成>

- ・イメージを広げたり、できあがりに期待をもったりできるよう、見本を用意する。
- ・のりで汚れた手をすぐに拭けるよう、濡らしたタオルを用意する。
- ・一人一人に目が行き届き、安心して取り組めるように少人数で行う。
- ・のりに触れることを嫌がる子に対し、無理強いくることなく製作ができるよう、綿棒など指の代わりとなるものを用意しておく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

豊かな感性と表現…生活や遊びを通して、気付いたり、感じたりしたことなどを自分なりに表現することを楽しむことで、イメージや感性が豊かになる。

協同性…友達と一緒に活動し、イメージを共有することで、表現の幅が広がる。また、様々なことをやってみようとする気持ちももてるようになる。

自立心…様々な活動に意欲的に取り組み、満足感や達成感を味わうことで、自信をもって行動できるようになる。

保育あるある知恵袋

Q：イヤイヤ期で気持ちが切り替わらず、ずっと遊び続けたり、癇癪を起したりし、次の行動になかなか移れません。どのように対応すれば良いですか？

A：まずは、子どもの思いに耳を傾け、受け止めてあげましょう。その上で、先の見通しを知らせたり、選択肢や代替案を提示したりしてみてください。他にも、興味が他のものに向くようにしたり、時には落ち着くまで見守り、気持ち整理する時間をつくってあげたりするのも良いと思います。その子の様子に合わせて効果的な方法を模索し、大人も深呼吸をしながら、おおらかな気持ちで接していきましょう。

2歳児
7月
生活習慣

「ナスおいしい！」 ～食事～

子どもの姿

【これまで】ままごと遊びでは、野菜や果物などの名前を保育者に教えたり、知っている食べ物をイメージしながら作ったものをご馳走したりする姿が見られた。食事の場面では、好き嫌いが見られ、特に野菜が苦手な子どもが多かった。

【今】クラスで育てているオクラや他クラスの栽培物（ナス、ピーマン、スイカなど）に興味を示し、園庭遊びの際には、水やりをしたり、手で触れてみたりと、生長を楽しみにしている。苦手な野菜も食べてみようとする姿が見られるようになってきた。

<ねらい>

- 食材に興味をもち、食べることを楽しむ。
- 楽しい雰囲気の中で、意欲的に食べようとする。

<エピソード>

野菜を食べるのが苦手なA君だが、園庭に出ると、「ナスの赤ちゃんいたよ」などと栽培物の成長に興味津々で観察を楽しんでいた。

ある日の給食で、味噌汁にナスが入っていることを知らせると、味噌汁を眺めるA君。すると、「ナスあった！お外にもあったよね」と観察したナスのことも一緒に思い出していた。隣に座っていたBちゃんがナスを食べていたので、「Bちゃん、ナスおいしいね。大きなお口でステキだね」と声をかけると、その様子を見ていたA君が、「Aも食べるよ」と大きな口で1つ食べる姿を見せてくれた。「なすさん、A君が食べてくれて嬉しいって」と声をかけると、

「ナスおいしい！」と笑顔になり、さらにもう1つ食べる事ができた。



<保育者の援助>

- ・食材に興味をもち、食べてみようとする気持ちが芽生えるよう、その日の献立を紹介するとともに、入っている野菜などの食材についても知らせる。
- ・味や食感、色や形などが食材とつながるような声かけをする。
- ・みんなで食べると“楽しい”“おいしい”ということが味わえるよう、友達と一緒にのテーブルで食事をし、おいしく食べられるような声かけをする。

<環境の構成>

- ・食材に興味をもてるよう、遊びの中で栽培物を一緒に観察しながら、色や形、感触などに触れる機会を設けたり、食べ物の絵本を用意したりする。
- ・意欲的に食べられるよう、一人一人の様子に合わせて量の加減をする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体…食事をする中で、友達と食べる喜びや楽しさを味わい、食べ物への興味や関心をもつことで、進んで食べようとする気持ちが育つ。

数量や図形などへの関心・感覚…野菜の栽培や収穫などを通して、形や色、大きさ、量の違いなどに気付き、それらに親しむことで、感覚が豊かになる。

思考力の芽生え…身近な自然に興味をもち、発見したり、考えたりすることを楽しむようになる。

保育あるある知恵袋

Q: 自分でできることも「やって」と大人にやってもらうのを待っている児には、どのように対応すれば良いですか？

A: 2歳児はいろいろなことができるようになり誇らしさを感じる一方で、まだまだ大人に甘えたい気持ちも大きい時期です。揺れ動く子どもの気持ちを汲み、励ましたり、甘えを受け入れたりと、その時の子どもの様子に合わせた援助をしていくことが大切です。

2歳児
10月
運動

「またやる！」 ～巧技台遊び～

子どもの姿

【これまで】6月中旬頃から、マットを使った遊びを取り入れてきた。A男は、マットに関心があるが、ブロックやままごとで遊びながら、時折マットの方に視線を向け、マットで遊んでいる友達の姿を見ている姿がある。

【今】9月から、マットの横に巧技台の蓋を置いてジャンプする遊びが始まった。A男は巧技台に興味をもち、そばまで近付いて友達の姿を見たり、時折笑顔で見つめる様子が見られるようになってきている。

<ねらい>

- 全身を使って繰り返し遊ぶ楽しさを感じる。
- 保育者や友達と同じ場で、巧技台で遊ぶ。

<エピソード>

普段から活発なB君、Cちゃんは、自分から巧技台に上りジャンプをしていたが、A君はマットの横から友達の様子を伺っていた。「A君、先生と一緒にやってみようか」と声をかけると、少しうつむきながら頷いた。A君は巧技台の上に乗ったものの保育者が手を添えても足が進まなかったため、A君を抱き上げてマットの上で下ろした。A君がほほ笑んだので保育者が「もう一回やる？」と尋ねると「うん」とつぶやいた。再び巧技台に上ったA君の表情が不安そうだったので、保育者が手を差し出すとA君は手を握り、自分からジャンプした。保育者が「Aくん、自分でできたね！」と声をかけると、一人で巧技台に上りジャンプした。A君は「できた！」と保育者の顔を見て笑顔になり「またやる！」と言い、再び巧技台に向かった。



<保育者の援助>

- ・遊びを楽しめるよう、表情や動きを見て、幼児一人一人に合わせた援助を行う。
- ・子どもが「またやりたい」と感じられるよう、挑戦しようとした意欲を認めたり、できた喜びを共感したりする。
- ・飛び降りる際は、着地点に子どもがいないことを確認してから次の幼児が遊ぶよう、声をかけながら進める。

<環境の構成>

- ・前段階として、マットに触れたり寝転がったりする経験、巧技台の蓋のみを使って登ったり飛び降りたりする経験などを積み重ねる。
- ・遊具に親しんだり遊び方を知ったりした上で、巧技台遊びを始める。
- ・巧技台の高さは、子どもの発達をふまえた上で、低いものから設置し、徐々に高くする。
- ・巧技台で遊ぶ際は、周囲に危険物がない広い場所に場を設定する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体…巧技台など、段差のある遊びを経験することで、脚力や腹筋、背筋が刺激される。また、全身を使う遊びの経験を積み重ねることで、バランス感覚が養われたり、運動機能の成長につながったりする。

道徳性・規範意識の芽生え…遊ぶために並ぶ、順番を待つ、周囲の危険を確認するなどの経験を重ねることで、集団生活において必要なルール等を学ぶ。

豊かな感性と表現…保育者や友達が遊ぶ姿を見て巧技台への上り方や跳び方を真似したり、自分なりに声や体で自分の思いを出したりすることで、様々な表現方法を知ったり自分なりに取り入れたりする。

保育あるある知恵袋

Q：順番を待つことが難しかったり、並んでいる友達を抜かしたりする姿が見られます。どのようにしたら、順番に並ぶことができるようになりますか？

A：子ども達は、集団生活に入って初めて「並ぶ」という経験をします。並ぶことが難しい・友達を抜かすことは、「早くやりたい」という気持ちの表れでもあります。「早く遊びたいね」と子どもの気持ちを受け止めつつ、「〇〇ちゃんの次にできるよ。楽しみだね。」と、子どもの順番を知らせたり楽しみに思える言葉がけをしたりします。

2歳児
2月
人との
関わり

砂のごはんを「どうぞ」 ～砂遊び～

子どもの姿

【これまで】Aちゃんは、そばにいる保育者に向けて、遊びで作ったものを「どうぞ」と渡したり、保育者から受け取ったりすることを繰り返していた。同じ場に友達がいる時もあるが、友達とのやりとりはせず自分のしたいことで遊ぶ姿が見られる。

【今】保育者が同じ場にいることで、遊びが持続する姿が見られるようになってきている。また、保育者や友達がしている姿を見て関心をもったり、やってみようとしたりする姿も見られる。

<ねらい>

- 友達や保育者がしていることに気付き、興味をもったり、やってみようとしたりする。
- 遊びの中で、同じ場にいる友達や保育者と、簡単な言葉のやりとりをする。

<エピソード>

砂場で、保育者と子どもが砂のごちそうを作っていた。Aちゃんは、保育者のそばへ歩いてきて「どうぞ」と砂をよそった皿を差し出した。保育者は「ありがとう」と答え、ごちそうを食べた後に「ああ、おいしかった。ごちそうさまでした。」と皿を返した。Aちゃんは笑顔になり、再び皿に砂を盛ると保育者に「どうぞ」と皿を渡した。その様子をじっと見ていたBちゃんに、保育者が「食べる？」と声をかけると頷いた。保育者がAちゃんに「Bちゃんも食べたいんだって」と声をかけると、「うん」と言い、違う皿に砂を盛り、Bちゃんに「どうぞ」と差し出した。Bちゃんは、「ありがとう」と言って、皿に盛られたごちそうを食べ始めた。



<保育者の援助>

- ・遊びが楽しくなるよう、子どものつぶやきや動きから思いやしたいことを捉え、共感する言葉がけや、玩具の提示をする。
- ・「どうぞ」「ありがとう」等の簡単な言葉のやりとりを繋がるよう、保育者が見本を示したり、子どもに促したりしていく。
- ・イメージを伴った言葉が獲得されていくよう遊びの中で経験を積み重ねていく。
- ・遊びの中で同じ場にいる友達との関わりがもてるよう、やりとりをつなぐ役割をする。

<環境の構成>

- ・友達との関わりをもてるよう、遊びの拠点となる場（テーブル、椅子、ビールケース等）を幼児の目につきやすい場所に設定する。
- ・一人一人が遊びに満足できるよう、子どもが興味をもち、関わってみたいと思えるような材料や遊具を多めに用意する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

自然とのかかわり…砂に触れながら、砂の感触や冷たさ、形作れる楽しさや崩れる面白さを感じる。また、草花や枝等、園庭にある素材を取り入れながら、自然と関わって遊ぶ楽しさを感じる。

言葉による伝え合い…見立て・つもり遊びをする中で、保育者や同じ場にいる友達と自分との思いのやり取りが生まれ、その場に合わせた言葉を獲得する。保育者の言葉や反応を通して、言葉を使う楽しさや喜びを感じられるようになる。

社会生活との関わり…同じ場にいる友達と遊ぶ姿が少しずつ見られるようになってくるが、平行遊びである。

保育あるある知恵袋

Q：なぜ、幼児は同じやりとりを何度も繰り返すの？

A：2～3歳になると、子どもは言葉を獲得し、自分のしたいこと、して欲しいことを言葉で表現するようになってきます。言葉を発することで相手が反応してくれることに喜びを感じ、何度も同じことを繰り返すことを楽しみます。子どもが自発的に関わってきた姿をその都度受け止め、言葉や動きで応え、人との関わりの楽しさや喜びを感じられるようにします。

3歳児
6月
生活
習慣

「ごちそうさまでした」 ～お弁当～

子どもの姿

【これまで】昼食の準備の仕方は、日々繰り返し積み重ねたことで、自分でできることをしようとしていたり、保育者に手伝ってもらいながらしたりして、少しずつ身についてきた。クラスのほとんどの子どもは昼食時間を楽しみに喜んで食事をしているが、食が進まずに不安になる子どももいる。

【今】食事時には個人差があるが、「みんなで食べるとおいしいね」と、子ども同士で話しながら落ち着いて食事している。

<ねらい>

- 友達や保育者と一緒に食事をする喜びや楽しさを味わう。
- 自分なりに好きな物を食べられた満足感をもち、安心する。

<エピソード>

A児は昼食時間近くになると泣いて不安になった。担任や3歳児補助教諭が抱いて安定を図っても激しく泣き続けて止まらない時は、職員室へ場を変え、園長や主任が関わり落ち着くようにした。

保育室で友達と一緒に食べられるように、担任と補助教諭が交代で付き添い、昼食介助をしていった。食べる一口が微量で、お茶を飲むことも時間がかかり、咀嚼や飲み込む力が微弱な様子が見られた。家庭でも食事に1時間弱かかるとのことだったので、園で30分程度で食べ終わる量や内容にしてもらうよう相談した。保護者の協力で調整してもらったが、30分以内で食べ終わることは難しかった。A児は残したくない思いもあったが、A児なりに頑張っている姿を認め、少しでも食べられてよかったことを伝えたところ、1ヶ月ほどかけて安定し、学級でお弁当を食べられるようになった。

<保育者の援助>

- ・安心して昼食時間が過ごせるように、子どもに寄り添い、必要に応じて膝に乗せたり、食材を食具でさらに小さくして口に運んだりして、保護者代わりとなって補助する。
- ・保護者と相談し、小さい容器に本児の好きな物を入れてもらう。
- ・降園時にその日の昼食時や遊びの様子を話し、情報共有をして、今後の方策を共に考える。

<環境の構成>

- ・落ち着いて食事ができるように、オルゴール曲をかけて静かな雰囲気を作る。
- ・気持ちが落ち着くまでに時間がかかる場合は、場を変えて心の安定を図る。
- ・ペースがゆっくりな幼児と一緒に食事を摂ることで安心できるように意図的にグループを再編成する。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 健康な心と体**・・・友達と一緒に和やかな雰囲気の中で食べ、美味しい、楽しいという経験を積み重ね、食べ物への興味や関心をもち、進んで食べられるようになる。
- 自立心**・・・保育者との信頼関係を築き、保育者を頼りながらも自分なりにできることをやってみようとする意欲が育ち、その頑張りを認められ自信をもつようになる。
- 社会生活との関わり**・・・保育者に支えられることで安定し、友達や人との関わりを広げていく。

保育あるある知恵袋

- Q**：園のトイレで排泄することを嫌がります。どのように工夫していけばよいでしょうか。
- A**：家庭のトイレと違うことで抵抗感をもつ子どももいます。例えば、トイレの扉や便器の前に子どもが好きな動物や乗り物などのシールを貼り、明るく楽しい雰囲気を作ります。また、男児用便器内に、排尿が当たると色が変わるシールを貼ることも、ゲーム感覚で楽しめます。一人で入ることを嫌がる子どもには、保育者が一緒に入り手をつないで見守ることも安心感につながります。子どもが安心してトイレで排泄できるように無理なく進めていきましょう。

3歳児
7月
人との
関わり

「お茶ください」 ～ 色水遊び ～

子どもの姿

【これまで】クラスの友達と一緒に、ままごとや簡単なお店やさん遊びを楽しんできた。その中で、店員が客に欲しいものを聞かずに渡したり、客が黙って品物を取っていったりする姿が見られた。

【今】年上のお兄さん、お姉さんのお店屋さんでの関わりを通して、客と店員の役になりきった言葉や動作を真似して、お店やさんごっこのやり取りを楽しんでいる。また、色水作りにも興味を示し、保育者と共に実や葉、花を採取して色水作りを楽しんでいる。

<ねらい>

- 異年齢児の遊びに興味をもち、参加しようとする。
- 身近な自然物に興味や関心をもつ。

<エピソード>

4歳児が、ピーマンの葉で色水を作り、お茶屋さんごっこの遊びを始めていた。「いらっしゃいませ」「おいしいお茶ですよ」と誘う声に応じて、3歳児の担任が「お茶ください」と頼むと、ペットボトルから透明カップに注いで「どうぞ」と渡してくれた。年上のお兄さん、お姉さんが店員であるため、3歳児も勝手に取ることなく、担任の真似をして「お茶ください」と頼み、受け取っていた。店員に「おかわりもありますよ」と勧められたり、「こぼしても大丈夫だよ」と優しく言われたりして、客の3歳児は喜んで何度も注いでもらった。また、お店の横で色水作りをしている様子を見てA児が「きれい」と興味を示したので、4歳児にどのように作ったのかを聞き、材料のある場所を教わり一緒に葉を採取したり作り方を見せてもらったりした。



<保育者の援助>

- ・交流の機会がもてるように、保育者同士で事前に日時や内容を相談し、連携を図る。
- ・4歳児のしている遊びに興味や関心をもてるような言葉をかける。
- ・4歳児が主体的に3歳児に関わり、言葉や動きでのやり取りを楽しめるように見守る。
- ・4歳児が自信をもち、より年上らしく振る舞えるように、3歳児担任も言葉や態度で関わり方のモデルを示し、4歳児のやさしさやよい所を言葉で伝える。

<環境の構成>

- ・客と店員がやり取りしやすいように高さを調節して、ままごとの台にお茶屋さんのカウンターを作ったり、関わる人数に応じて場の取り方を調整したりしていく。
- ・お店のやり取りの他、お茶作り（葉を使って色水遊び）に興味や関心が向く子どももいる。園庭の自然物のある場所や、作り方などを異年齢児に教わったり、一緒に作ってみたりできるように交流の機会を設けていく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

社会生活との関わり・・・異年齢児との関わりを通して、やさしさや楽しさを経験し、喜ぶ。

自然との関わり・・・自然物に目を向け興味や関心を広げるようになる。また、自然物に触れ、変化する不思議さを感じ、自分で実や花、葉を探して関わろうとする。

豊かな感性と表現・・・身近な環境と関わる中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、そこから得た感動を友達や保育者と共有し、様々な方法で自己表現しようとする。

保育あるある知恵袋

Q：3歳児が5歳児の色水作りの様子を見て、初めから道具の使用も方法も同様にして作りたいと望む場合、どのように援助したらよいでしょうか？

A：3歳児は身近な自然物に関心をもって触れることを大切にし、まずは自分の手ですぐに行うことができる簡単な方法（例：ビニール袋に自然物と水を入れて手で揉む）を紹介します。不思議さ、驚き、子どもが自分でできた喜びに共感し「もっとやってみよう」という意欲を大切にしながら、遊びの経験を積み重ねていけるとよいですね。

3歳児
9月
環境との
関わり

「おいで、入れるよ」 ～フープ遊び～

子どもの姿

【これまで】一斉活動のフープを使った遊びにおいて、みんなで行う活動に楽しさを感じる子どもがいる一方、自分の思い通りにならず悔しがり、他の友達同士が楽しそうにしているのを、遠目で見ている子どももいる。

【今】フープ遊びの中で「一緒に入ろう」「こっち空いているよ」と声をかけ合うようになってきた。生活の中では、一緒に遊びたい友達に自分から関わったり、順番に対する意識をもった言動が見られたりするようになってきた。

<ねらい>

- 保育者や身近にいる友達と同じ場で遊んだり、同じように動いたりすることを楽しむ。
- 動物になりきって歩いたり、色を探したりしながら、友達と関わろうとする。

<エピソード>

音楽に合わせて、円形に並ぶ複数のフープの外側を子ども達が歩いていると音楽が止まった。保育者が「赤と黄色に入って!」と言うと複数ある赤と黄色のフープの中に全員が入ることができた。

色を変えて楽しむうちに『赤にしか入らない』と言っていたA児が、フープの中に入れない状況となった。すると友達から「A君おいで、こっち入れるよ」と呼ばれ、友達がいる緑のフープに入った。

友達が楽しそうにしているのを見ているうちにそれまでは『自分が入ったフープには友達を入れない』と言っていたB児が、フープに入れないでいる友達に「おいで、入れるよ」と声をかけた。フープの中に友達が入ると、互いに顔を見合わせて嬉しそうにしていた。

フープの中に全員が入ったことを子ども達が確認し合うと「次は?」と保育者の言葉を待つ声が聞かれゲームが続いた。

<保育者の援助>

- ・音楽に親しみながら歩くことが楽しめるように、取り組み具合を見ながら、止まる、またはフープに入る指示をする。
- ・歩くことに慣れたら、動物になりきって歩くなど違う楽しみ方ができるように、動きや鳴き声、表情など、保育者が共に楽しむ。
- ・子ども同士で関わるきっかけを作るために、色を指定する、フープを減らし複数人で入るなど、ルールを変化させていく。

<環境の構成>

- ・色の名前に興味をもてるように時計の数字の横に色シールを貼るなど、普段から色の名前を使い、親しみが持てるようにする。
- ・伸び伸びと体を動かすことができるようにホールで行う。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

自立心・・・集団遊びの中で、保育者の話に耳を傾けながら、自分なりの動きをすることで遊びの楽しさを味わうようになる。

協同性・・・遊びを楽しむ中で、友達と言葉をかけ合うことを通して喜びを感じる。

道徳性、規範意識の芽生え・・・友達と同じ遊びを楽しむためには、自分の気持ちを調整することや、きまりを守る必要があることを知る。

保育あるある知恵袋

Q: 衣服の着脱はどのように指導していますか。

A: 日々の繰り返しで基本的な生活の仕方がわかり身の回りのことを自分でしようとするので、衣服の着脱の際は自分で服を用意し、服の前後を気に留めながら自分のペースで着られるようにします。また衣服のたたみ方や裏返しの直し方のイラストなどを見て、自分で確認できるようにしています。

3歳児
10月
運動

「東京タワー…ピッ！」 ～組体操ごっこ～

子どもの姿

【これまで】5歳児の組体操の活動を見たり、異年齢交流で運動会ごっこをしたりするなどの経験を通して、5歳児の兄がいるA児や、A児と仲のよいB児が組体操の東京タワーのポーズをするようになった。

【今】自分たちなりに5歳児の組体操の真似を繰り返して遊ぶ子どもが増えた。また、日常生活の中で気の合う友達へ自分から関わっていくようになってきている。

<ねらい>

- 体を動かす心地よさを感じる。
- 運動会の再現遊びを、保育者や友達と一緒に楽しむ。

<エピソード>

A児が「東京タワー…ピッ！」と言って、両手を上げて掌を合わせるポーズをとった。体操を好むB児も加わり一緒にポーズをとった。「Bちゃんの足が(肩幅ぐらいに開いて)パーになっているね」と保育者が言うとA児はB児の足を見て真似をした。その間にB児が東京タワーのポーズの維持ができなくなりよろけると二人は顔を見合わせて笑った。「(今度は)先生が言って！」の声に応え、保育者が「飛行機…ピッ！」と言うと、二人は両手を広げてポーズをとった。続けて「飛行機飛びます。片足を上げる…ピッ！」と言うと、二人はバランスをとった後、しりもちをついた。保育者が「飛行機は飛ぶとカッコいいけど難しいね～」と言うと、3人で大きな笑い声をあげた。その様子を見て「入れて」と数名が加わり、組体操ごっこが続いた。



<保育者の援助>

- ・子どもなりに頑張っている姿を応援したり、できるようになった技が増えた時に認めたりしながら、楽しい雰囲気を作る。
- ・組体操の技を繰り返し楽しめるように子どもの様子を見て、3歳児がポーズをとりやすい動きを取り入れる。
- ・いろいろな動きを楽しめるように、言葉がけを工夫したり、活動内容を組み立てたりしていく。

<環境の構成>

- ・子ども一人一人が体を動かすことに満足できるよう、間隔や立つ位置を調整し、十分な時間を確保する。
- ・友達と一緒にいたり、保育者と同じように動いたりする姿を見守り、楽しさを受け止めていく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体・・・やりたいことに主体的、意欲的に取り組みながら体を動かすことで、楽しさや心地よさを感じるようになる。

言葉での伝え合い・・・「(技の名前)・・・ピッ！」と言ったりリズムのある言葉や、自分が経験した動きについて、自分なりの言葉で伝えられるようにする。

協同性・・・保護者や友達への親しみの感情が高まり、関わる楽しさを十分に体験することの繰り返し、協同する姿の基盤となる。

保育あるある知恵袋

Q：散歩など園外活動の際、配慮していることは何ですか。

A：園外保育に出掛ける際は、友達と2人組で手を繋いで歩道の内側を歩く事や、信号や横断歩道の歩き方を確認し、交通ルールを守って移動をします。公園到着後は、公園内での遊び方を子どもと確認するなど、安全に園外での活動が楽しめるようにしています。また危機管理として、目的地までの移動経路を事前に確認し、園と連携が取れる対策を行い出掛けます。

3歳児
2月
感性と
表現

「誰だ、おれさまの橋を渡るのは！」 ～ 表現活動 ～

子どもの姿

【これまで】ままごと遊びでお家の人や猫になったり、ごっこ遊びで店員や客になったり、アニメ番組のヒーローになったりして、友達と楽しんできた。

【今】アニメ番組や絵本の中で気に入った役や場面を、友達と一緒に簡単な言葉や動作を合わせて楽しんだり、ごっこ遊びで使うものを自分なりにつくる姿が見られる。

<ねらい>

- 見立てたり、好きな役になりきったりして、友達と遊ぶことを楽しむ。
- 自分なりの表現をしながら、友達と一緒に動く楽しさを感じる。

<エピソード>

年中組の劇「三匹のやぎのがらがらどん」を見学した。事前に読み聞かせを行い、やぎの歩き方を真似したり、トルロとやぎの掛け合いの言葉を言ったりすることで、興味を高められるようにした。年中組の表現を見て、トルロとやぎの対決場面が、印象に残ったようで「すごかったね」「面白かったね」と喜んでいた。後日園庭で遊具を構成してサーキット遊びをしていると、子どもが四つ這いになり、板を橋に見立てて渡り始めた。保育者が「誰だ、俺様の橋をガタゴトさせるのは！」と、トルロのような怖い表情と声色で接近すると「大きいやぎのがらがらどんだ！」と返してきた。「勝負だ！」と対決し、トルロが負けて、やぎが無事に橋を渡り山に到着して草を食べる場面まで進めた。「僕もやりたい」と、次々に子どもが集まり、ライオンや恐竜になってトルロと対決することを楽しんだ。



<保育者の援助>

- ・子どもたちが、役になりきった表現活動を伸び伸びと楽しめるように、絵本の読み聞かせ後や、リズム遊びの際に、保育者が率先して様々な表現（動作、鳴き声、表情、言葉など）をして、子どもと共に楽しむ。
- ・皆と一緒に関われない幼児も、徐々に表現活動ができるように、気持ちに寄り添いながら、見て楽しんでいることを認めたり保育者と一緒に動いてみたりする。

<環境の構成>

- ・子どもがいつでも遊びの中で自然に表現することを楽しめるように、その場で簡単に見立て、なりきれるような環境を工夫する。（例：段ボール紙を立てて【岩、山、家】に見立てる。戸外の移動遊具を活用する など）
- ・遊びの中で自由につくることを楽しめるように、製作コーナーに様々なお面の型や製作用具、素材などを用意する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 健康な心と体**・・・見る、聞く、触れることや全身を使う活動を繰り返し楽しみながら、様々な活動に自分なりに取り組み、自ら体を動かそうとする意欲をもつようになる。
- 言葉による伝え合い**・・・保育者や友達と様々な絵本や物語を楽しみ、体を弾ませたり、言葉を言ったりしながら、共感したり感じたことを伝え合ったりする。
- 豊かな感性と表現**・・・感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現することを楽しんだりして、表現する喜びを味わう。

保育あるある知恵袋

Q: 戦いごっこがブームになっています。どのように進めていけばよいでしょうか。

A: なりきることや気の合う友達との関わりは大切です。英雄に憧れてなりきって遊ぶことは、自己表現の一つとして受け入れ、保育者も一緒に敵や味方になって遊びながら、危険のない遊び方を伝えていきます。また、的を作ったり「強くなる修行をしよう！」と違う遊び方を提案したり、遊びの拠点となる場を作り仲間との交流を大切にして、一緒に楽しんでいきます。

「手伝って！！」 ～砂場遊び～

子どもの姿

【これまで】進級・入園当初から、母親とのつながりが強いためか、登園時に泣いて母親と離れられない幼児の姿が見られる。自分の思いは強いが、言葉で表現することが年齢的に難しいこともあり、周りに伝わらなくて、どうしたらよいかわからない幼児もいる。

【今】初めての園での泥遊びや、集団生活を経験しながら、少しずつ生活習慣を獲得し、自分でできたと思えることが増えることが、自信につながり、家庭での姿にも変化が出てきている。

<ねらい>

- いろいろな活動に興味をもち、自分のやりたい遊びを見つけて楽しむ。
- 自分でできることに喜びをもちながら、生活に必要な習慣を身に付ける。

<エピソード>

一斉活動で、砂場で水や砂を使って遊ぶ活動を行ったA児は、ダイナミックに水を入れたり、運んだりして楽しんでた。着替えの時間になると、自分からは動き出さず黙り込む。服が濡れているため、教師が着替えることを促すが、嫌がっていた。落ち着いたところで話をすると、「着替えが面倒くさい」という。次の日になると、「水遊びがやりたくない」と言う。保育者が、「水遊びは楽しいんだよね？」と尋ねると頷く。「着替えで難しいところは手伝うから大丈夫だよ！」と声を掛けると表情が和らぎ、水遊びを楽しんだ。着替えの時には、自分から「手伝って」とは言えなかったが、手伝うと最後まで頑張ってボタンを閉めることができた。

降園時保護者に、着替えの際に、頑張ってボタンができたことを伝え、A児も嬉しそうにしていた。



<保育者の援助>

- ・いろいろな遊びの面白さを伝えることで自分からやってみようと思えるように援助する。
- ・子どもの様子をよく見て、自分では難しいと感じることは保育者に言葉で伝えられるように関わりながら、苦手な部分は手伝う。
- ・生活の中で、幼児が「自分でできた」と感じられることが増えるように、保護者と連携して、幼児の興味や関心に沿って活動しながら意欲を高めていく。

<環境の構成>

- ・戸外に子どもが、「やってみたい」「楽しそう」と感じられるような遊具や用具を準備し、工夫して設定しておく。
- ・子どもが困った時や、手伝ってほしい時にすぐに保育者に伝えられるように、保育者同士の立ち位置に配慮するとともに自分から発信できるような、雰囲気作りや、言葉掛けをしていく。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体・・・衣服の着脱や身の回りの始末など、生活の中で必要なことに気付き、自分で行うようになる。

自立心・・・自分のことは自分で行い、自分でできないことは、保育者や友達の助けを借りながら、できるようになる。

社会生活との関わり・・・保育者に支えられて、初めてのことにも挑戦できるようになる。

保育あるある知恵袋

Q： 思いはたくさんあっても、まだ言葉で伝えるのが難しい4歳児の1学期。幼児の困り感をうまく表出させるために、どのような手立てがあるのでしょうか。

A： 遊んだり話を聞いたりしながら思いを汲み取り、気持ちを言語化していくと良いと思います。また、「〇〇を手伝って！」など、言葉で伝えたことが相手に受け入れられる喜びを感じることでコミュニケーションの幅も広がっていくのではないかと考えます。また、大人がやってしまうのではなく、少し手を添えるなどして、自分でできたと思えることを増やしていくことも大切だと考えます。それが自信になり、またやってみようとする意欲につながるのではないかと考えます。

4歳児
7月
人との
関わり

「一緒に楽しいね！」 ～絵の具遊び～

子どもの姿

【これまで】年中組での生活に慣れ、保育者や友達に親しみの気持ちをもつようになり、自分から好きな遊びや友達を見つけて遊び出す子どもの姿が多く見られるようになってきた。その一方で新入園児の中には、まだ不安や緊張感が高く、なかなか友達と関わりがもてずにいる子どももいる。

【今】それぞれが自分の興味に合った活動を見つけ、取り組む中で、友達と一緒に活動することを楽しむ姿が見られるようになってきた。また、これまで自分の思いを出すことが難しかった子どもも、保育者や友達との関わりの中で、自分の思いを少しずつ言葉で表現できるようになってきた。

<ねらい>

- 自分の興味に合った遊びを見つけ、楽しむ中で、友達との関わりをもつ。
- 遊びを通して、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。

<エピソード>

室内遊びの中で、絵の具を使ったデカルコマニーの活動ができるよう、環境の設定をしておく、A児がそれを見つけて近づいてきた。これまで自分の思いがなかなか伝えられず、遊びに入れなかったこともあったA児が、自分から「入れて」と言い、周りの友達もそれを受け入れ、一緒に遊び始めた。A児は、同じ場にいる友達と絵の具用のスマックを着るのを互いに手伝ったり、出来上がったデカルコマニーの作品を見せ合い「きれいだね!」「一緒に楽しいね!」などと、思ったことを笑顔で伝え合ったりしていた。A児は、この体験をきっかけに、他の遊びにも入っていくようになり、友達と一緒に活動することを楽しむようになった。



<保育者の援助>

- ・子どもが活動に興味を示せるように、保育者も一緒に絵の具を使ったデカルコマニーを楽しみ、やり方を見せる。
- ・友達との関わりがもてるよう、保育者がモデルとして、関わりに必要な言葉を意識的に発信し橋渡しをしていく。
- ・子ども同士が進めようとしている時には見守り、必要に応じて援助していく。

<環境の構成>

- ・興味をもった子どもからすぐに遊び出せるように、場や教材を用意しておく。
- ・友達と一緒に活動しながら会話をしたり、互いの姿を見合ったりできるような配置をする。
- ・友達の作品にも興味をもてるように、出来上がった作品を互いに見合えるよう掲示しておく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

言葉による伝え合い・・・自分の思いを相手に分かるように話し、言葉を通して友達と心を通わせるようにしていく。

豊かな感性と表現・・・様々な表現の面白さに気付いたり、友達と表現する過程を楽しんだりしていく。

協同性・・・いろいろな友達との関わりを通して、互いの良さを分かり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。

保育あるある知恵袋

Q：友達と関わるのが苦手な幼児が、友達と一緒に楽しく遊ぶためには、どのようにしたら良いのでしょうか？

A：まずは好きな遊具や興味のありそうなことを探ります。それから、その子の好きなことを起点にして、保育者がそばで楽しんでみたり、友達との橋渡しをしたりして、周りに目を向けていきます。子どもは、身近な大人の言動や人とのやり取りを通して、人との関わりを学び、徐々に視野も広がって友達にも目が向くようになっていきます。その子なりのペースを大切にしましょう。

4歳児
9月
環境との
関わり

「カブトムシ、さようなら」 ～生き物の飼育～

子どもの姿

【これまで】身近な虫に興味をもち、園庭遊びではダンゴムシや蟻を捕まえて観察したり、触ったりして楽しんでいる。

【今】昨年度から継続し、幼虫からカブトムシに羽化するまでをクラスで飼育している。ケースの中で動くカブトムシを観て楽しんでいる。カブトムシに触れない子どももいるが、当番活動でゼリーを入れ替えることは楽しんでいる。時々、触り方が強引になったり、もののように扱う姿もある。

<ねらい>

- 身近な生き物に興味関心をもち、見たり触れたりしながら関わる。
- 発見したことや考えたこと、感じたことを自分なりの言葉で表現し、伝え合う。

<エピソード>

ある日、飼育当番の子どもが飼育ケースの蓋を開けると、土の中に頭を突っ込んだまま動かなくなっているカブトムシを発見した。
「先生、このひと動かない！」その声を聞いて、周りで遊んでいた子どもも集まってくる一人の子どもが「死んじゃったんだ」と言った。集まった子ども達からは「なんで、死んじゃったの?」「ゼリー毎日あげてたのに?」「誰かが、ぎゅって強く持ったからじゃない?」「病気になっちゃったのかな。」と、死んでしまった原因を考え、話し始めた。そこで、カブトムシの一生についての絵本の読み聞かせをした。その中で寿命があることを知り「ちょっとしか生きられなくてかわいそうだね」という子もいた。その後、みんなで裏庭にカブトムシを埋めることにした。「さようなら」「またあたらしいカブトムシになつてうまれてきてね」とロ々に別れの挨拶をした。

<保育者の援助>

- ・生き物を大切に扱えるよう、子ども達と一緒に世話をしたり、観察したりしながら適切な触り方、力の加減を伝える。
- ・友達同士で考えを共有したり、一緒に感動したりできるように、子どもが観察していて発見したことや感じたことをクラスの子ども達にも伝える。

<環境の構成>

- ・自由に観察できるよう、飼育ケース、ゼリーなどを用意し、置いておく。
- ・気付いたことや疑問に思ったことを調べられるよう、カブトムシに関連する図鑑や絵本を用意する。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

思考力の芽生え・・・飼育を通して生き物の生態について自分で考え、友達と思いを伝え合う。

自然との関わり・生命尊重・・・生き物の生死に触れ、いたわったり、命の尊さに気付いて大切にしようとしたりする。

言葉による伝え合い・・・気付いたことや感じたことを保育者や友達と伝え合い興味関心を広げる。

保育あるある知恵袋

Q：子ども達が身の回りの出来事や自然事象に興味をもって関わるにはどうすれば良いでしょう。

A：一人一人、興味の方は違います。クラスの中の誰かが発見したことを保育者が拾い、周囲の子ども達にも伝えていくことで一人の発見がクラス全体へと広がっていきます。また、子どもの疑問に対して知識を教えるのではなく、次の発見、考察へのきっかけとなる問いかけをすることでさらに活動が広がっていくと思われます。子どもの目線で一緒に考えたり、感動を共有したりすることで興味関心は広がっていきます。

4歳児
10月
運動

「がんばれのパワー」 ～リレー～

子どもの姿

【これまで】クラスの友達と、かけっこやサーキットレースを楽しんでいる。一緒に走る友達の中で、より速く走ろうとしたり、競争で一番にこだわったりする姿がある。

【今】年長児のリレーを見て、憧れの気持ちをもち、楽しんで取り組んでいる。チームでの勝敗よりも自分自身が一緒に走る相手との競争での勝敗にこだわる子ども、自分の順番が来て走るのを楽しみにしている子どもなど、様々である。

<ねらい>

- 友達と一緒に、ルールや順番を守りながら運動遊びを楽しむ。
- 意欲的に活動に取り組む中で、自分の力を発揮する。

<エピソード>

A児はリレーで自分の順番になった際、相手の友達よりも後からバトンを受け取ると、途中で立ち止まったり、泣いて走ることができなかつたりする。その様子を他の子ども達は静かに見守っていた。

ある日、年長組がリレーをしているのを見る機会があった。1人が途中で転んでしまうが、すぐに立ち上がり、走り出した。周りの子ども達は「がんばれ!!」と大きな声で応援していた。その後、クラスでもリレーをはじめた。A児はこの日も途中で立ち止まってしまった。すると、同じチームのB児が「Aちゃんががんばれ!」と声をかけた。それをきっかけに他の子ども達も口々に「がんばれ!!」と言ったり、手を叩いたりして応援し始めた。保育者が並走するとA児は泣きながらも最後まで自分で走りきった。

その後も、リレーをする度、子ども達から自然と友達を応援しようとする姿が見られるようになっていった。

<保育者の援助>

- ・活動への意欲につながるよう、走る速さや、勝敗だけでなくリレーに一生懸命取り組む姿や、友達を最後まで応援する姿を認める。
- ・友達の中で自分なりに力を発揮しようという気持ちが育つよう、リレーや勝敗に対する意欲への個人差に留意し、声をかけて励ましたり個別に援助したりする。



<環境の構成>

- ・遊びの中でも自由にリレーに取り組めるよう、バトンやトラックを用意する。
- ・友達にバトンを渡す簡単なゲームを設定し、リレーに段階的につなげる。(直線、コーンを折り返す競争、トラック1周を数名で分割するなど)
- ・バトンは受け取りやすいリング状のものを使用する。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

健康な心と体・・・友達と一緒に十分に体を動かして遊ぶ充実感を味わう。

協同性・・・友達と一緒に取り組むことの楽しさや嬉しさを味わう中で、自分なりの目的をもつ。

道徳性・規範意識の芽生え・・・勝負のあるゲームの中で様々な感情を経験し、相手の気持ちにも気付いて自分の思いに折り合いをつける。ルールを理解し、その必要性に気付く。

保育あるある知恵袋

Q：運動遊びやゲームを行う際、自分の勝ち負けにこだわり、友達同士でトラブルになったり、負けて意欲をなくしたりした際はどのように援助していけばよいでしょう。

A：4歳児という年齢では、まだチームの一員という思いやルールの理解に個人差があります。同じ遊びを友達と一緒に繰り返す中で、勝った嬉しさ、負けた悔しさどちらも経験し、相手の思いにも少しずつ気付けるようになっていきます。「負けても次またがんばろう」と思えるよう、次の機会への期待をもたせ、繰り返し楽しめるようにしましょう。

4歳児
2月
感性と
表現

「みんな見て！素敵でしょ！」
～表現活動～

第Ⅲ部 保育・教育課程
4歳児 V期 P.40
ねらい「自分なりの目的
や目標に向かって考えたり
や目標に向かって考えたり
、試したりしながら遊ぶ」
につながる姿

子どもの姿

【これまで】歌ったり踊ったりする活動に進んで取り組む幼児が多数見られ、繰り返し楽しんでいました。子どもたちの間で人気の高いダンスの曲を取り入れたところ、テレビと同じ振り付けで踊ろうとする子どもと、自分なりの表現を楽しむ子どもがおり、そのことが原因でトラブルが起きることがあった。

【今】自分だけでなく、周りの友達の踊る姿に目を向け、互いの良さを認め合う姿が見られるようになった。それにより、それぞれが自分なりの表現で伸び伸びと踊ることを楽しむようになった。

<ねらい>

- 自分なりのイメージをもち、考えたり工夫したりしながら表現することを楽しむ。
- 友達と一緒に表現遊びを楽しむ中で、相手の思いや動きに気づき、互いの良さを発揮し合う。

<エピソード>

7～8人の子どもたちが誘い合って集まり、音楽に合わせて踊ったり、必要な小道具を考えて作り、それをういて表現することを毎日のように楽しんでいました。保育者が子どもたちからのリクエストのあった曲を準備したところ、みんな生き生きと夢中になって踊り出した。しかし、次第に「こは、こういう風に踊るんだよ！」と、テレビと同じ振り付けで踊ることを主張するA児やB児に対して、「私はこういう風に踊りたいの！」と、自由に踊ることを楽しみたいC児の間でトラブルが生じることがしばしばあった。そこで、保育者がどちらの意見も受け入れ、それぞれの良さを具体的な言葉で表しながら認めていくと、子どもたちが周りの友達の姿に目を向け互いの良さを伝え合う姿が見られるようになった。また、振り付けにこだわらず、「みんな見て！素敵でしょ！」と、自分なりの表現を楽しむ幼児が増えた。

<保育者の援助>

- ・興味に合った曲や小道具の材料を豊富に用意し、目的に向かって活動できるよう一人一人に応じた援助を行う。
- ・個々の子どもの表現を具体的な言葉に表して認め、自分の良さを感ずると共に、友達の良さにも気づけるようにする。
- ・トラブルが起きた際は、保育者が解決に導くのではなく、子どもたちが意見を出し合いながら進めていけるようにする。

<環境の構成>

- ・子ども同士が互いの姿を見合えるように場所を設定する。
- ・表現を豊かにするための小道具が作れるように、踊りのコーナーの隣に製作コーナーを設定する。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

社会生活との関わり・・・友達と共通の目的をもち、思いや動きを受け止め合って遊ぶ楽しさを感じるようになる。

言葉による伝え合い・・・保育者や友達の話を親しみをもって聞き、保育者や友達に自分の思っていることを安心して話せるようになる。

豊かな感性と表現・・・自分の気持ちを表現することを楽しみながら、思いを出せるようになる。

保育あるある知恵袋

Q：子どもの「思い」や「やりたい」ことを実現させるために、どのような手立てが有効でしょうか？

A：まずは子どもが安心して自分の思いを出せるような雰囲気づくりをしていきます。遊びの中で一人一人の子どものつぶやきをキャッチし、個性を認めていきながら、それぞれが思いを実現させるための援助をしていきます。子どもは、「自分は認められている」「受け入れられている」と感じると、伸び伸びと自信をもって遊ぶようになり、次第に自分の思いを実現する喜びを味わうようになります。

「今日はお当番だ！がんばるぞ！」 ～当番活動～

子どもの姿

【これまで】生活の流れが分かり、意欲的に活動に取り組む姿が見られるが、見通しをもって遊んだり片付けたりすることができないときもあった。

【今】活動に対して自分たちなりに自覚をもち取り組めるようになってきた。見通しをもつようになったことで、気持ちを切り替える姿や、片付け時に協力を求める声をかけ合う姿も見られるようになってきた。

<ねらい>

- 自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。
- 自分の役割が分かり、当番活動に意欲をもって取り組む。

<エピソード>

当番表を作り、活動を行っている。自分たちで当番表を確認したり、自分の名前が紹介されることを心待ちにしたりする姿が見られていた。給食の数を伝えたり、洗濯物を集めたり、また給食時のテーブル拭きが主な当番の仕事である。当番バッチをつけることで、当番への意識も高まってきたため、個々が進んで取り組んでいる姿をクラス全体にも伝えるようにしていた。片付けの時間になり、A児はB児に声をかけ、当番であることを知らせた。遊びの途中だったB児が「わかっている」と言い急いで片付け始めると、一緒に遊んでいたC児も手伝っていた。B児は自分の物を片付け終わると「当番だからあとはお願い！」と言ってみんなで共有していた物はC児に託していた。C児も「オッケー！」と言って快く引き受けていた。B児は当番活動へ意欲的に取り組み、みんなに「ありがとう」と言われると嬉しそうにしていた。

<保育者の援助>

- ・当番活動に自発的に取り組めるように、手順を伝える。
- ・個々の自信や意欲につながるように、自主的に取り組んでいる姿を認める。
- ・互いに認め合うことができるように、責任をもって取り組む姿や、友達と協力して進んでいる姿を、クラス全体にも知らせる。

<環境の構成>

- ・当番表はいつでも確認できるように、視覚的に見えやすい場所に貼る。
- ・当番への意識が高まるように、朝の会で紹介する機会を設け、当番バッチをつける。
- ・当番活動時に使用する物は、子どもが分かりやすく、取り出しやすい場所に置いておく。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 道徳性・規範意識の芽生え・・・様々な体験を重ねる中で決まりを理解するという道徳性や規範意識、自分の気持ちを調整する力や思いやりの気持ちが育っていく。
- 社会生活との関わり・・・相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じたりすることができる。
- 言葉による伝え合い・・・言葉による伝え合いを楽しむようになり、豊かな言葉や表現する力が身に付いていく。

保育あるある知恵袋

- Q：親切な気持ちで友達に伝えようとしているが、口調がきつく、一方的な言い方になってしまうことがあります。子どもにどのように言葉をかけたらよいでしょうか。
- A：自主的に友達に知らせてくれた姿を、まずは認めましょう。そして具体的な言葉や伝え方を知らせ、相手の気持ちを考えた伝え方ができるように、働きかけていきましょう。うまく伝えることができたときは、「今の伝え方、素敵だったね」と認めていくことも大切です。

5歳児
7月
環境との
関わり

「見て！綺麗な色水ができたよ」 ～色水遊び～

子どもの姿

【これまで】「やってみよう」という気持ちをもって、自分から取り組もうとする姿が、見られるようになった。友達と意見が衝突してしまうこともあるが、場を共有して遊ぶことを楽しんでいる。

【今】用具を使うことで遊びが広がり、発見したり変化したりすることを楽しみ、試したり協力したりしながら、友達とイメージをもって遊びを進める姿が見られるようになった。

<ねらい>

- 身近な自然に触れ、遊びに取り入れて楽しむ。
- 様々な用具や材料を使って、試したり考えたり工夫したりしながら遊ぶ。

<エピソード>

ビニール袋にオシロイバナやアサガオの花びらと水を入れ、手でもんで色水をつくることを楽しんでいたA児とB児。出来上がった色水の袋を触って「冷たいね」「気持ちいいね」と言いながら互いに見せ合っていた。花びらの枚数で濃さが変わること気付くと、花びらの量を考えるようになった。子どもの様子に合わせてカップやペットボトルなどを用意し自由に使えるようにすると、A児はつくった色水をペットボトルに入れようとした。押さえたほうが入れやすいということが分かったとB児に「ここ押さえて」と伝えた。B児は「いいよ」と言って手を添えて、互いに協力しながら遊ぶようになった。「実験みたいだね」と混ぜた色の変化を楽しんだり、ジュース屋さんに見立てて色水を並べたりして遊びが発展していった。出来上がった色水を光にかざすと、キラキラ輝くことを発見したB児は「見て！綺麗だよ」とA児に知らせ、嬉しそうな表情を浮かべていた。

<保育者の援助>

- ・用具や材料を無駄に使うことがないように、手順や使い方を伝える。
- ・好奇心を抱きながら繰り返し試したり、考えたり工夫したりすることができるように個々の取り組みに応じた援助や言葉かけをする。
- ・自分の気持ちが受け止められる心地よさが感じられるように、試している姿や水の色が変化する様子など、子どもの驚きや発見、気付きに共感する。

<環境の構成>

- ・試したり考えたり工夫したりできるように、遊びに必要な用具や材料を用意する。
- ・じっくりと遊ぶことができるように、ゆとりのあるスペースをつくり、場所を設定する。
- ・繰り返し楽しめるように、子どもが扱いやすい環境を整えておく。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から大切にしたいポイント

- 思考力の芽生え・・・考えたり工夫したりしながら、物との多様な関わりを楽しむようになる。
自然との関わり・生命尊重・・・身近な自然に触れることで、不思議さに気付いたり、大切にすることをもちながら関わりを持つ。
- 数量や図形、標識や文字・・・遊びながら数や量に触れ、親しむ体験を重ねていくことで、興味や関心などへの関心・感覚
心をもつようになり、数量などの感覚が養われていく。

保育あるある知恵袋

- Q：用具や材料の扱い方や片付けが乱雑になってしまうことがあります。丁寧に扱うことを指導するには、どのようにしたらよいでしょうか。
- A：子どもと一緒に準備をしたり遊びの環境を作ったりすると意識や意欲も高まり、自分で考えて行動する姿にもつながっていきます。片付けの時間にゆとりをもち、子どもが自主的に取り組むことができるように、一緒に分類したり並べたりして整えていくと少しずつ身に付いていきます。

5歳児
9月
人との
関わり

「エイリアンを倒そう！」 ～サーキット遊び～

子どもの姿

【これまで】様々な遊具を使ったサーキットのコースづくりを楽しんでいる。友達同士で思いを認め合いながら遊びを進めていく中で、時には、思いがぶつかり合い、いざこざが起こることもある。

【今】自分たちでコースをつくる中で、互いの思いを認め合ったり、一緒に遊び方を考えたりしながら、作り上げた充実感や満足感を味わい、繰り返し遊びに取り組んだ。思いがぶつかることもあるが、自分たちで遊びを進めようとする姿も見られるようになってきている。

<ねらい>

- 思いや考えを出し合いながら、友達と一緒に遊びを進めていくことを楽しむ。
- 友達とイメージや目的を共有し、試したり考えたりして遊ぶことを楽しむ。

<エピソード>

室内遊びの時間、積み木や巧技台を使い、宇宙探検のコース「宇宙ミッション」をつくり始めた。繰り返し遊ぶ中で、A児が「エイリアンが出てきたら面白いよね！」と新しいアイデアを出した。一緒に遊んでいる子どもたちも、「いいね！エイリアンを攻撃して倒そうよ！」とA児の思いを受け入れた。A児も「それいいね！倒せたら、進めるってことね！やってみよう！」と受け止め、エイリアンと、攻撃するためのゴム鉄砲をつくり始めた。ゴム鉄砲は以前つくって遊んでいたもので、互いに教え合ったり、エイリアンを壁に貼ったりして、コースを皆で作り上げていった。保育者が様子を見に行くと、A児たちが嬉しそうに新しいコースの説明してくれた。保育者も一緒に遊び、「楽しいね！誰が考えたの？」と聞くと、A児は「僕たちだよね！」と嬉しそうに、互いの顔を見合わせた。

<保育者の援助>

- ・イメージを共有し、遊びを十分に楽しめるように、保育者が仲間になって一緒に遊び、子ども同士の会話や動きを受け入れる。
- ・思いが行き違ったときには、保育者が仲介役になり、子どもの思いを聞き出したり相手に伝えたりする。
- ・自分たちで遊びを展開する充実感や友達とのつながりを味わえるように、言葉かけをする。

<環境の構成>

- ・宇宙のイメージを引き出せるように、宇宙に関する絵本や図鑑を準備する。
- ・子どものイメージや思いを引き出したり、膨らませたりできるように、サーキットのコースをつくるための様々な遊具の準備や製作するための素材を準備する。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 協同性・・・自分の思いを表現しながら、友達同士でよさを認め合い、一緒に考えたり、工夫したりし、やり遂げる経験を積み重ねる。
- 道徳性・規範意識の芽生え・・・友達の気持ちを知り、自分の行動を振り返ったり、気持ちに折り合いをつけたりしながら遊ぶようになる。
- 言葉による伝え合い・・・自分の思いが友達に伝わる喜びや友達の思いを聞く楽しさを感じる。

保育あるある知恵袋

Q：友達の思いを受け入れられない子どもがいます。どう援助したら良いのでしょうか。

A：思いを受け止めてもらう安心感や喜びを感じれるよう、まずは保育者が思いを受け止めることが大切です。子どもたちの間に入り、思いを言葉や表情を加えて分かりやすく伝えることで、思いを感じ取れるようにするのも1つの方法です。また、日々の遊びや活動の中で、友達同士で思いを出し合う大切さを、子どもが実感できるような経験を積み重ねていきます。

5歳児
12月
運動

「頑張って！」 ～ドッジボール～

子どもの姿

【これまで】ドッジボールをして繰り返し遊ぶ中で、子ども同士でルールが共通になり、ルールを確認し合いながら遊び、チームでの勝負を楽しんでいる。ボールをキャッチしたり、相手に向かって勢いよく投げたり、ボールに当たらないように逃げたりするなど、体を思い切り動かしている。

【今】チームの友達を応援したり、励まし合ったりしながら遊ぶことで、仲間関係が深まっている。また、友達の姿にもよく目が向くようになり、投げ方や逃げ方がうまいと思う友達の真似をして、一人一人が自信をもってドッジボールをして遊ぶようになってきている。

<ねらい>

- 友達と一緒にルールのある運動遊びを楽しみ、自分の力を発揮する心地よさを感じる。
- 友達のよさを感じ、頑張りを認め合いながら遊ぶ。

<エピソード>

友達同士で誘い合いドッジボールが始まった。内野のA児は足元に転がってきたボールを拾うと、不安そうな表情で、友達にボールを渡そうとした。保育者が様子を見守っていると、同じチームの友達は「投げてみなよ！」や「当てられるかもしれないよ！」とA児を励ました。A児も「分かった！」と力いっぱい投げ、「またやってみる！」と言って生き生きした表情を見せた。その後、各チームの内野がB児とC児の1人ずつになった。B児もC児もうまくボールから逃げ、勝負がつかないでいると、同じチームの友達から「頑張って！」「しっかりねらって投げて！」などの応援する姿が見られた。最後、B児にボールが当たり、勝負がついた。B児は悔しくて涙を流した。すると、B児の周りにA児やクラスの友達が集まり「2人共逃げ名人だね！」と声を掛けた。徐々にB児も表情が明るくなり、「今度は最後まで当たらない！」と言い、遊びを終えた。

<保育者の援助>

- ・挑戦していく意欲を引き出し、前向きな気持ちで遊びに取り組みるように、一緒に遊びながら励ましたり、投げ方やボールの取り方、逃げ方などのコツを知らせたりする。
- ・子ども同士が、友達のよさを認め合いながら遊ぶ心地よさを感じられるように、保育者も子どもの頑張りを認めたり、友達のよさに気付いている子どもの言葉を受け止めたりしながら遊びを進める。

<環境の構成>

- ・遊びに満足するまで、繰り返し取り組むことができるように、時間の保障や活動できる場所を確保する。
- ・ドッジボールに取り組む人数や、ボールを投げたり、逃げたりする様子の実態によって、コートの実態によって、コートの広さを変化させる。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 健康な心と体・・・ボールを使って様々な体の動きを経験し、体を思い切り動かす心地よさを味わう。
- 自立心・・・友達や保育者に励まされながら、難しいことにもやってみようと挑戦し、諦めずに取り組み、達成感を味わう経験を通して自信を高める。
- 協同性・・・一人一人が自己発揮しながら、互いのよさを認め合うことで、仲間関係が育まれる。

保育あるある知恵袋

- Q：勝ち負けにこだわり、友達に強い言葉や責める口調で話す子どもへの援助はどうしていますか？
- A：遊びに夢中になっている姿と捉えると、勝ちたい、負けて悔しいという子どもの気持ちを保育者が受け止めることで、気持ちを調整するきっかけになるのではないのでしょうか。仲間と力を合わせて目的を達成するために、相手の視点に立ち、自分の言動を振り返りながら、どのような言動が良いのか、一緒に考えるようにしています。

5歳児
1月
感性と
表現

「みんなで相談して考えよう！」
～海賊ごっこ～

子どもの姿

【これまで】友達と相談しながら活動に取り組んでいるが、思い通りに進まないことがあると意見が衝突したり、自分のやりたいことがうまくできず困ったりする姿が見られていた。

【今】友達と活動を進める経験を重ねたことで協力したり助け合ったりできるようになってきた。うまくいくことで達成感を味わいできることを自分なりに表現しようと楽しむ姿も見られるようになった。

<ねらい>

- 感じたことや考えたことを自分で表現して楽しむ。
- 交流活動に必要な物をつくったり、工夫したりすることを楽しむ。

<エピソード>

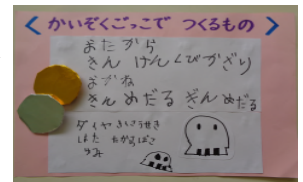
異年齢交流で海賊ごっこをすることになった。最初は意見がまとまらなかったが、小学校との交流後、体験をもとに様々な案が出るようになり「一緒にやってあげるといいよね」「手遊びもやる？」と年下の子どもも楽しめる内容を考えるようになった。A児は「宝箱をつくらうよ」と積極的に意見を伝えイメージを膨らませていた。B児は「宝探しもしたいね」と言って旗や金貨の案を出し、必要な材料を考えていた。交流活動では、年長児が見本となって、つくったり遊んだりした。「小さい組さんも一緒につくるから大きい金貨のほうがいいよね」と年下の子どもに合わせて工夫する姿も見られるようになった。意欲的に案を出す、年下の子どもに丁寧に教える、器用な子どもが製作を担当するなど、個々が得意なことに取り組むことで持ち味を発揮し、自分の表現を楽しむことができた。一緒につくり上げていくこの経験が、その後の自信にもつながった。

<保育者の援助>

- ・友達と考えを出し合って楽しめるように、取り組みの過程を見守り、意見を整理したりアイデアが出るような投げかけをしたりする。
- ・表現する喜びや充実感を味わうことができるように、子どもの発想を大切に、思いを表現できているか、様子をみながら仲介する。
- ・伸び伸びと表現しながら自信をもって取り組めるように、力を発揮していた姿や、最後までやり遂げた姿を認める。

<環境の構成>

- ・イメージしたものを、すぐにつくることができるように、様々な材料を用意しておく。
- ・互いに思いや考えを出し合えるように、紙にかき出して、イメージの共有につなげる。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から大切にしたいポイント

- 自立心・・・見通しをもって活動を進め、最後まで諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
- 協同性・・・共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりしながら、友達と一緒に活動を展開する楽しさを味わい、充実感をもってやり遂げるようになる。
- 豊かな感性と表現・・・友達同士で表現する過程を楽しみ、保育者や友達に認められることで表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

保育あるある知恵袋

Q：自己主張のぶつかり合いが起こることがある時の対処はどうしていますか。

A：心の葛藤を経験することは内面が成長できる良い機会です。子どもの考えを尊重し、周りの友達にもどうすればよかったか聞きながら、自分たちなりに解決できるようなきっかけをつくっていきましょう。互いの思いや意見を取り入れながら子どもの主体性が育っていくような働きかけをしていくと、個々が伸び伸びと自己を発揮しながら表現することを楽しめるようになります。